令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　71

事務事業名称		交通安全施設整備事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　土木部		課：　交通対策課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度
	事業期間	事業開始：　不明		～		事業終了予定：　未定（継続実施含む）		
	根拠法令等	交通安全対策基本法 交通安全対策特別交付金等に関する政令						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質：　—		
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	道路環境が整備され、歩行者、自転車、バイク、車両の交通事故がなくなる。						
	対象者（受益者）	全世代の市民、来訪者 市内で営業している企業など						
	現状・課題	交通事故が発生する						
	事業の概要	地元の要望等により、地域の交通環境の実態を調査し、地元の意向を踏まえて適切な交通安全対策を立案する。 立案した交通安全対策に基づき、道路柵などの交通安全施設の新設を行うとともに道路反射鏡や区画線の新設、更新を行う。						
	年間の主な事務	・地域要望や子どもの交通安全プログラムに基づく交通安全施設の整備（道路反射鏡、区画線、ポストコーン、横断防止柵等）						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.77人	0.88人	—	—
	再任用	0.05人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.25人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,186	7,224	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	523	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	6,186	7,747	—	—		
歳出	物件費計	48,762	43,294	—	—	54,000	80.2%
歳出計		54,948	51,041	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	43,940	41,944	—	—	46,000	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		43,940	41,944	—	—	46,000	
一般財源（物件費充当分のみ）		4,822	1,350	—	—	8,000	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 交通安全施設整備数量（区画線）	m	27,487 m	14,385 m	— m	— m
② 交通安全施設整備数量（カーブミラー）	基	39 基	43 基	— 基	— 基
③ 交通安全施設整備数量（ポストコーン）	本	18 本	28 本	— 本	— 本
④ 交通安全施設整備数量（防護柵）	m	107 m	84.7 m	— m	— m

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	立案した交通安全対策に基づき、交通安全施設の新設及び区画線の新設、更新を実施
指標	立案した交通安全対策に対する整備完了率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	96	90	—	—	%
算出方法	整備完了件数／立案件数×100				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

交通事故件数の減少

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	立案した交通安全対策のうち、目標値の80%を大幅に上回る96%について対策を講じた。 当事業費は、年々縮小しているものの、安全に関する要望は膨大に寄せられている。そのような状況ではあったが、優先順位や要望の精査を行うことで、目標値を上回る対策を実施した。また、優先順位を定めることで、より効果的な交通安全対策を行うことができた。
R7年度	立案した交通安全対策のうち、目標値の80%を大幅に上回る90%について対策を講じた。 当事業費は、年々縮小しているものの、安全に関する要望は膨大に寄せられている。そのような状況ではあったが、優先順位や要望の精査を行うことで、目標値を上回る対策を実施した。また、優先順位を定めることで、より効果的な交通安全対策を行うことができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引続き、交通安全施設の設置基準に基づき、必要な交通安全対策を講じていく。また、限られた予算でできる限り効果を発揮できるよう、優先度を精査しながら、安全対策を講じていく。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　87

事務事業名称			めいわく駐車防止事業					
担当部署(R8年度機構)			部:　土木部	課:　交通対策課		区分	義務的事業	
基本項目	総合計画	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち			細区分	選択的区分	
		施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち			性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性		所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度 / R9年度
						—	—	
	事業期間		事業開始：　1995(H7)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)					
	根拠法令等		道路交通法 �方市めいわく駐車の防止に関する条例　�方市開発事業等の手続等に関する条例					
	関係附属機関等		該当なし					
	関係補助金等		該当なし　補助金性質:　—					
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態		めいわく駐車を防止することにより、道路が公共の施設として広く一般交通の用に供されることを確保し、もって市民が安全で快適に生活できる環境の保持及び向上に資する。					
	対象者(受益者)		全世代の市民、来訪者 市内で営業している企業など					
		現状・課題	一部、迷惑駐車により通行が妨げられ、苦情や対策の要望に繋がっている。 開発事業等における駐車場所確保の協議指導では、敷地形状等により条例の数値台数の協議を整えることが難しくなっている。 集配を行う事業者やサービスを提供する事業者等の車両による路上駐車が発生している状況。 人件費等の高騰などによる経費の上昇。					
	事業の概要		枚方市駅周辺の「重点地域」のおいて交通指導員を配置し、めいわく駐車をしようとする者に指導・助言及び啓発を行う。 開発行為等の申請に対して、交通安全施設・自動車駐車場・自転車置場等の設置及び工事期間中の工事車両等の安全対策について協議・指導を行う。					
	年間の主な事務		・コミュニティパーキング共通駐車券システム事業に関する調査研究 ・開発事業等の手続等に関する条例に基づき、駐車場所の確保に関する協議指導 ・委託業者の管理監督 ・苦情要望対応					

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.94人	1.07人	—	—
再任用	0.10人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	7,759	8,784	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		7,759	8,784	—	—		
	物件費計		6,194	6,012	—	—	7,000	85.9%
歳出計			13,953	14,796	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			6,194	6,012	—	—	7,000	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市駅周辺（めくわく駐車防止重点地域）を対象とした、交通指導員による、めいわく駐車防止活動日数	日	50 日	38 日	― 日	― 日
② コミュニティパーキング共通駐車券の利用枚数	枚	161,798 枚	144,147 枚	― 枚	― 枚
③ 開発協議等の申請件数	件	129 件	134 件	― 件	― 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	めいわく駐車をしようとする者及び現にしている者に対し、指導・助言及び啓発を行う
指標	指導・助言及び啓発件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	6,000	6,000	6,000	6,000	件
実績	4,481	3,071	―	―	件
算出方法	実績				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	めいわく駐車台数がなくなり、スムーズな道路等の通行ができている
指標	悪質・長時間駐車台数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	0	0	0	0	件
実績	0	0	―	―	件
算出方法	0を目指すため				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

めいわく自転車により円滑な道路交通が妨げられることなく、交通安全や災害救援の通行機能が確保されている。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	めいわく駐車への指導巡回により、駐車台数は減少してきており、悪質な長時間駐車はなかった。引き続き、枚方市駅周辺のめいわく駐車防止に努める。
R7年度	悪質な長時間の駐車車両はなかったものの、南口ロータリー付近など、駐停車が増える箇所があり、その都度対応に努めた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	枚方市駅周辺の再開発事業が進行中であり、引き続き、来街者に対して交通誘導や駐車場案内の活動を進める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　88

事務事業名称		岡東町自動車駐車場施設維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部	課:　交通対策課			区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1994(H6)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	道路交通法 枚方市自動車駐車場条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	・自動車駐車場の安定した管理運営を行うことで枚方市駅周辺のめいわく駐車がなくなり、周辺の道路の通行がスムーズにできる。 ・自動車駐車場の計画的な維持補修がなされ、利用者が安全・安心に施設を利用することができる。						
	対象者(受益者)	全世代の市民、来訪者 枚方市駅周辺で営業している企業など						
	現状・課題	枚方市駅周辺には、駐車場をもたない店舗や医院等が多く、これらの店舗等を自動車で利用する際に駐車する場所が必要。また、店舗等の前に駐車すると迷惑駐車となり、円滑な道路交通が阻害されるため対策が必要。						
	事業の概要	岡東町自動車駐車場の施設維持管理						
	年間の主な事務	・岡東町自動車駐車場施設設置者としての指定管理者の管理監督 ・市有建築物保全計画などに基づく施設維持管理 ・苦情要望対応						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.73人	0.83人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.05人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	5,612	6,813	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	105	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	5,612	6,918	—	—		
歳出 物件費計	60,135	45,810	—	—	135,695	33.8%
歳出計	65,747	52,728	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	97,830	96,714	—	—	97,990	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	37,694	—	—	37,705	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	97,830	134,408	—	—	135,695	
一般財源(物件費充当分のみ)	0	0	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 指定管理者等との協議調整	件	13 件	14 件	— 件	— 件
② コミュニティパーキング共通駐車券システムへの利用者数	枚	100,111 枚	90,091 枚	— 枚	— 枚
③ 一時利用の施設利用台数	台	185,548 台	178,958 台	— 台	— 台

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：継続的なめいわく駐車対策の実施

指標：自動車駐車場運営日

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	365	365	365	365	日
実績	365	365	—	—	日
算出方法	運営した日数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

安定した自動車駐車場運営の維持

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	昨年度より利用台数は減少したが、令和4年度から導入しているキャッシュレス決済などで利用者の利便性が高いことや、一時使用の駐車時間が長くなったことなどにより、使用料の増収につながったと思われる。一時利用者の駐車時間の長期化は、枚方市駅周辺再開発事業にともなう商業施設の開業なども要因の一つと考えられる。 また、コミュニティパーキング共通駐車券システムの活用などにより、市駅周辺のめいわく駐車対策が図られた。
R7年度	利用台数・使用料収入はわずかに減少したものの、事前精算機やキャッシュレス決済などによる利便性の高さや一時利用車の駐車時間の長期化、自動二輪車の一時使用の需要の向上により一定の収益が得られている。 また、コミュニティパーキング共通駐車券システムの活用などにより、市駅周辺のめいわく駐車対策が図られた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	今後も、指定管理者との協議を重ねることで安定した施設運営を図り、継続的なめいわく駐車対策に取り組む。また、更なる経営の安定化を図るため、適切な施設改修を実施するとともに、将来の大規模修繕等に備えるための財源確保に努める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　90

事務事業名称		交通安全啓発事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　土木部		課：　交通対策課		区分	義務的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	選択的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	交通安全対策基本法 交通政策基本法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	交通対策協議会補助 枚方交野交通安全協会補助　　補助金性質：　事業費補助						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	市民等が交通ルールやマナーへの理解を深めて遵守し、交通の秩序維持することが交通事故の防止につながることを認識することにより、交通事故をなくし、安全な交通社会を実現できている状態。						
	対象者（受益者）	全世代の市民、来訪者 市内で営業している企業など						
	現状・課題	交通事故は減少傾向ではあるものの、以前発生している状況。毎年、死亡事故も発生している。 交通事故の重大化を受け法改正により取締りの強化や厳罰化等も行われているが、特に自転車では、交通ルールやマナーの遵守について学ぶ機会が少ない。						
	事業の概要	・小学生を対象とした交通安全教室等、段階的かつ体系的な交通安全教育の実施 ・春と秋の全国交通安全運動に併せ、啓発パレードや通学路要点立番指導を実施するなど、交通安全の普及啓発活動の実施 ・安全運転講習会の実施 ・運転免許自主返納者への支援など、高齢ドライバーの安全に資する環境づくり ・公民連携による広報活動 ・各種交通安全啓発						
	年間の主な事務	・春と秋の全国交通安全運動 ・各種交通安全キャンペーンの実施 ・高齢者免許自主返納者へのひらかたポイント付与 ・警察など各種関係団体と連携した取組 ・交通対策協議会及び枚方交野交通安全協会への補助金交付 ・交通対策協議会事務局の運営						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制 （人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.65人	1.89人	—	—
再任用	0.20人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.45人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 （千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	13,751	15,515	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	941	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	13,751	16,456	—	—		
歳出 物件費計	17,247	13,455	—	—	12,460	108.0%
歳出計	30,998	29,911	—	—		
歳入 国庫支出金	0	2,978	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	399	—	—	400	
歳入計（物件費に充当される特定財源）	0	3,377	—	—	400	
一般財源（物件費充当分のみ）	17,247	10,078	—	—	12,060	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 交通安全教室、DVD等の貸出の件数	件	123 件	119 件	— 件	— 件
② 交通対策協議会が実施している啓発事業件数	件	8 件	8 件	— 件	— 件
③ 枚方交野交通安全協会が実施している啓発事業件数	件	56 件	46 件	— 件	— 件
④ 交通安全啓発に資する補助金の支出額	円	9,918,652 円	2,708,271 円	— 円	— 円

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

アウトプット（活動が産み出した結果）

ロジックモデル

アウトプット①

説明：市民が、交通安全に関して触れる機会が増える。

指標：市実施の交通安全に関する各種取組の参加人数（交通安全教室、DVD等の視聴、各種啓発事業）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	6,000	6,000	6,000	6,000	人
実績	9,841	13,153	—	—	人
算出方法	積み上げ				

ロジックモデル

アウトプット②

説明：市民が、交通安全に関して触れる機会が増える。

指標：交通対策協議会に係る交通安全に関する各種取組の参加人数（各種啓発事業）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	10,000	10,000	10,000	10,000	人
実績	9,753	8,427	—	—	人
算出方法	積み上げ				

ロジックモデル

アウトプット③

説明：市民が、交通安全に関して触れる機会が増える。

指標：枚方交野交通安全協会に係る交通安全に関する各種取組の参加人数（各種啓発事業）

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	4,000	4,000	4,000	4,000	人
実績	3,545	4,670	—	—	人
算出方法	積み上げ				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：市民等が交通ルールやマナーへの理解を深めて遵守し、交通の秩序を維持することが交通事故の防止につながることを認識することにより、交通事故をなくし、安全な交通社会を実現できている。

指標：市内の交通事故発生件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,300	1,250	1,200	1,150	件
実績	1,072	1,158	—	—	件
算出方法	大阪の交通白書の数値				

アウトカム②

説明：市民等が交通ルールやマナーへの理解を深めて遵守し、交通の秩序を維持することが交通事故の防止につながることを認識することにより、交通事故をなくし、安全な交通社会を実現できている。

指標：市内の交通事故発生件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,300	1,250	1,200	1,150	件
実績	1,072	1,158	—	—	件
算出方法	大阪の交通白書の数値				

アウトカム③

説明：市民等が交通ルールやマナーへの理解を深めて遵守し、交通の秩序を維持することが交通事故の防止につながることを認識することにより、交通事故をなくし、安全な交通社会を実現できている。

指標：市内の交通事故発生件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,300	1,250	1,200	1,150	件
実績	1,072	1,158	—	—	件
算出方法	大阪の交通白書の数値				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

交通安全意識の向上

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	小学校(歩行・自転車)の交通安全教室や、春と秋の全国交通安全運動では啓発パレードや交通死亡事故被害者慰霊献花式を実施するなど、交通事故の削減に向けた啓発活動を実施した。 また、保育所(園)や幼稚園への交通安全啓発のDVDや紙芝居の貸し出しや、企業からの寄付を基に、高校生が作成した交通安全啓発のラッピングバスを市内で運行するなど、交通ルールやマナーの周知に努めた。
R7 年度	小学校(歩行・自転車)の交通安全教室や、春と秋の全国交通安全運動の啓発パレードなど、交通事故の削減に向けた啓発活動を実施した。 また、自転車への交通反則通告制度(青切符)の導入に合わせ、「広報ひらかた」への特集記事の掲載等による周知を図ったほか、市内保育所等への交通安全DVD・紙芝居・絵本の貸し出すなど、幅広い世代への交通ルールやマナーの周知に努めた。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	今後も、効果的な交通安全啓発活動を実施していく。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　93

事務事業名称		放置自転車対策事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部		課:　交通対策課		区分	義務的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	選択的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度
	事業期間	事業開始：　1987(S62)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	自転車の安全利用の促進および自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律 枚方市自転車等の放置防止に関する条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	交通安全の確保、災害救援の円滑化及び通行機能の維持を図り、もって良好な都市環境を保持する。						
	対象者(受益者)	全世代の市民、来訪者 市内で営業している企業など						
	現状・課題	法に基づき、自転車等の駐車対策の総合的推進の一環として、駅前広場等の良好な環境を確保し、その機能の低下を防止するため鉄道駅周辺を自転車等放置禁止区域に指定し、対策を講じている。 人件費や燃料費等の高騰などによる経費の上昇。						
	事業の概要	鉄道駅周辺を自転車等放置禁止区域に指定し、放置自転車、原動機付自転車の指導・警告・移送業務を行う。(13駅:樟葉駅、牧野駅、御殿山駅、枚方市駅、枚方公園駅、光善寺駅、香里園駅、宮之阪駅、星ケ丘駅、村野駅、長尾駅、藤阪駅、津田駅周辺) また、移送した自転車等の保管・返還を行い、引取りのない自転車等のリサイクルや売却処分を行う。						
	年間の主な事務	・委託業者の管理監督 ・職員による放置自転車等の指導・警告・移送 ・放置自転車等の防止に係る看板等の施設整備や維持管理 ・苦情要望対応 ・開発事業等の手続等に関する条例に基づき、自転車駐車場所の確保に関する協議指導						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.22人	0.25人	—	—
再任用	0.25人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	3,023	2,052	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	3,023	2,052	—	—		
歳出 物件費計	27,794	30,230	—	—	31,570	95.8%
歳出計	30,817	32,282	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	960	1,801	—	—	864	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	237	164	—	—	105	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	1,197	1,965	—	—	969	
一般財源(物件費充当分のみ)	26,597	28,265	—	—	30,601	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 対策事業の延べ実施日数（枚方市内の鉄道駅13駅周辺にて各一実施した日数の合計）	日	816 日	816 日	― 日	― 日
② 放置自転車等の返還台数	台	411 台	871 台	― 台	― 台
③ 開発協議等の申請件数	件	129 件	134 件	― 件	― 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：放置禁止区域内での放置自転車等に対し、適切に指導・警告を実施する。

指標：放置禁止区域内で放置自転車等の指導・警告を行った台数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	15,000	15,000	15,000	15,000	台
実績	14,790	18,430	―	―	台
算出方法	実績				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：交通安全の確保、災害救援の円滑化及び通行機能の維持を図り、もって良好な都市環境を保持する。

指標：放置禁止区域内からの移送台数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	800	800	800	800	台
実績	721	1,264	―	―	台
算出方法	実績				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

放置自転車により円滑な通行が妨げられることなく、交通安全や災害救援の通行機能が確保されている。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	枚方市駅前は、放置自転車台数が以前多く発生しており、適時撤去を行い放置自転車対策を実施した。 光善寺駅前の新商業施設前の放置自転車等については、関係部署と連携し対策を図った。 そのほかの駅周辺については、これまでの対策の効果により、放置自転車は減少傾向だった。
R7年度	枚方市駅前の岡東中央公園付近と光善寺駅前の商業施設前の放置自転車等が依然多く発生しており、関係部署と連携し撤去を行うなど放置自転車対策を実施した。 そのほかの駅周辺については、これまでの対策の効果により、放置自転車は減少傾向だった。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引き続き、枚方市駅前の岡東中央公園付近と光善寺駅前の商業施設前の放置自転車等の対応を関係部署と連携し行っていく。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	―	―

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　95

事務事業名称		有料自転車駐車場施設維持管理事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部		課:　交通対策課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　1987(S62)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律 枚方市自転車駐車場条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	・自転車駐車場の安定した管理運営を行うことで放置自転車等がなくなり、周辺の道路の通行がスムーズにできる。 ・自転車駐車場の計画的な維持補修がなされ、利用者が安全・安心に施設を利用することができる。						
	対象者(受益者)	全世代の市民、来訪者 市内で営業している企業など						
	現状・課題	法に基づき、自転車等の駐車対策の総合的推進の一環として、自転車等の駐車需要に応じ鉄道駅13駅周辺に19箇所の有料自転車駐車場、市駅周辺に3箇所の機械式自転車駐車場を設置している。 施設の老朽化や借地による駐車場経営など自転車駐車場の安定的な運営が課題。						
	事業の概要	有料自転車駐車場の施設維持管理運営						
	年間の主な事務	・有料自転車駐車場施設設置者としての指定管理者の管理監督 ・市有建築物保全計画などに基づく施設維持管理 ・苦情要望対応						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.30人	1.49人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.05人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	9,994	12,231	—	—		
		会計年度任用職員	0	105	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		9,994	12,336	—	—		
	物件費計		306,481	307,125	—	—	308,895	99.4%
歳出計			316,475	319,461	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		277,209	280,968	—	—	298,274	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			277,209	280,968	—	—	298,274	
一般財源(物件費充当分のみ)			29,272	26,157	—	—	10,621	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 指定管理者等との協議調整	件	12 件	12 件	— 件	— 件
② 施設利用台数	台	4,266,298 台	4,362,194 台	— 台	— 台

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：継続して自転車駐車場を運営

指標：自転車駐車場運営日

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	365	365	365	365	日
実績	365	365	—	—	日
算出方法	運営した日数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：—

指標：—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—		—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

自転車利用環境の維持

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	使用料収入が前年度より微増しているものの、コロナ禍以降の新しい生活様式の定着などから、今後も同水準の収入で推移するものと考えられる。 また、使用料収入が微増した要因としては、一昨年前に導入した一時利用の機械式や24時間化などによる利便性の向上が利用者に定着してきたことによるものと思われる。
R7年度	使用料収入が前年度より増加しており、指定管理者による一次利用の機械化やキャッシュレス化、24時間化などによる利便性の向上が利用者に定着してきたことによるものと思われる。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	指定管理者によるアンケート調査の実施による利用者ニーズを把握し、利便性向上に向けた取組を進めることで、使用料収入の増加を図り、安定した管理運営が継続できるよう、指導・監督に努める。	R8年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　100

事務事業名称		公共交通環境整備事業						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部		課:　交通対策課		区分	義務的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	選択的区分	
	総合計画 施策目標	5.快適で暮らしやすい環境を備えたまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2001(H13)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	交通政策基本法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	持続可能な公共交通の実現						
	対象者(受益者)	全世代の市民、来訪者 市内で営業している公共交通事業者、企業など						
	現状・課題	人口減少や少子高齢化の進展に加えコロナ禍によりライフスタイルや移動ニーズが多様化したことにより、公共交通利用者が減少。 併せて、労働人口の減少に加え労働管理の厳格化などによる路線バス運転手不足も顕著化。 特に、継続的に路線バスの廃止や減便などが行われ市民生活に影響が出ている。						
	事業の概要	過度に自家用車に依存することなく、多様な交通手段を選択することができるように、鉄道、バス、タクシーなどの公共交通の利用を促進するため、公共交通利用環境を整備し、持続可能な交通機能を確保する。						
	年間の主な事務	・駅前広場を含む道路等における安全対策や改良 ・バス停における安全対策や改良 ・交通事業者や警察との協議調整						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.22人	0.25人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	1,691	2,052	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	0	—	—		
歳出 人件費計	1,691	2,052	—	—		
歳出 物件費計	0	0	—	—	0	0.0%
歳出計	1,691	2,052	—	—		
歳入 国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入 府支出金	0	0	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
歳入 市債	0	0	—	—	0	
歳入 その他	0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)	0	0	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 公共交通事業者からの改良要望等の受付・対応	件	1 件	1 件	— 件	— 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明	各種要望に対し、適切に処理する。
指標	各種要望に対する対応率

指標	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	100	—	—	%
算出方法	要望件数/対応件数				

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明	本市全人口に対する鉄道・バス等の利用可能エリア内に含まれる人口の割合
指標	地域公共交通人口カバー率

指標	R6	R7	R8	R9	単位
目標	86.8	86.8	86.8	86.8	%
実績	86.8	100	—	—	%
算出方法	枚方市総合交通計画における指標を引用				

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

既存公共交通ネットワークが維持される。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	公共交通の利用促進やネットワークの維持に関しては、これまで実施してきたバス停等における猛暑対策事業が完了し、市民からご好評の声をいただくなど、一定の効果を実感している。 令和6年度は京阪バスと連携を図り、バスロータリーにおいて安全対策を講じるなど、公共交通事業者からの要望に対し、適宜対応を行った。
R7年度	今年度は既存公共交通ネットワークを維持するため、路線バス事業者を中心に綿密に協議を重ねてきた。その中で駅前ロータリーの安全対策や、路線バスの運行経路における危険を解消するため、地域や関係者と協議を行うなど、様々な対応を実施した。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度取組方針	引続き、様々な交通事業者と連携を図り、既存の公共交通ネットワークを維持に努めていく。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　114

事務事業名称		公共交通利用促進（モビリティ・マネジメント）事業						
担当部署（R8年度機構）		部：　土木部	課：　交通対策課		区分	義務的事業		
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち			細区分	選択的区分		
	総合計画 施策目標	5.快適で暮らしやすい環境を備えたまち			性質	交通・都市基盤		
	市長公約との関係性	所信表明（R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—	—		
	事業期間	事業開始：　2004（H16）年度　～　事業終了予定：　未定（継続実施含む）						
	根拠法令等	交通政策基本法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質：　—						
詳細項目	事業の目的（最終アウトカム）・目指すべき状態・課題が解決した状態	みんなで交通について考え、支えていくことで、将来も公共交通網が維持され、外出しやすい環境が整った状態。						
	対象者（受益者）	全世代の市民、来訪者 市内で営業している公共交通事業者、企業など						
	現状・課題	人口減少や少子高齢化の進展に加えコロナ禍によりライフスタイルや移動ニーズが多様化したことにより、公共交通利用者が減少。 併せて、労働人口の減少に加え労働管理の厳格化などによる路線バス運転手不足も顕著化。 特に、継続的に路線バスの廃止や減便などが行われ市民生活に影響が出ている。						
	事業の概要	過度に自家用車に依存することなく、多様な交通手段を選択することができるように、鉄道、バス、タクシーなどの公共交通の利用を促進し、持続可能な交通機能を確保する。						
	年間の主な事務	・ひらかた交通タウンマップを市内転入者等へ配布 ・ひらかた交通タウンマップを活用した利用促進イベントの実施 ・利用促進と公共交通従事者確保を兼ねたイベントの実施 ・公共交通利用促進に繋がる出前講座 ・交通事業者など関係機関との協議調整						

2. 事務事業への投入コスト（インプット）

人員体制	（人）	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.34人	0.39人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額	（千円）	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額（参考）	予算執行率（参考）
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,614	3,202	—	—		
歳出 内訳	会計年度任用職員	0	0	—	—		
歳出 内訳	特別職非常勤	0	0	—	—		
歳出 内訳	附属機関委員	0	0	—	—		
歳出	人件費計	2,614	3,202	—	—		
歳出	物件費計	1,666	1,674	—	—	1,735	96.5%
歳出計		4,280	4,876	—	—		
歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	
歳入	府支出金	0	0	—	—	0	
歳入	受益者負担（使用料・手数料）	0	0	—	—	0	
歳入	市債	0	0	—	—	0	
歳入	その他	0	489	—	—	500	
歳入計（物件費に充当される特定財源）		0	489	—	—	500	
一般財源（物件費充当分のみ）		1,666	1,185	—	—	1,235	

（留意事項）
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ひらかた交通タウンマップの配布	枚	10,000 枚	10,000 枚	— 枚	— 枚
② ひらかた交通タウンマップの配布	回	4 回	3 回	— 回	— 回
③ ひらかた交通タウンマップを活用した利用促進イベントの実施	回	1 回	1 回	— 回	— 回
④ 利用促進と公共交通従事者確保を兼ねたイベントの実施	回	4 回	4 回	— 回	— 回
⑤ 公共交通利用促進に繋がる出前講座	回	3 回	2 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明: 公共交通に係るイベントに市民等が参加する

指標: 公共交通に係るイベントの参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	300	300	300	300	人
実績	301	302	—	—	人

算出方法: 各イベントにおいてカウント

ロジックモデル

アウトプット②

説明: 公共交通に係るイベントに市民等が参加する

指標: 公共交通に係るイベントの参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	300	300	300	300	人
実績	301	302	—	—	人

算出方法: —

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 本市全人口に対する鉄道の利用者の割合

指標: 鉄道利用者の市域人口に対する割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	63.4	63.4	63.4	63.4	%以上
実績	63.4	64.7	—	—	%

算出方法: 枚方市総合交通計画における指標を引用

アウトカム②

説明: 本市全人口に対するバスの利用者の割合

指標: バス利用者の市域人口に対する割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	18.3	18.3	18.3	18.3	%以上
実績	18.3	18.9	—	—	%

算出方法: 枚方市総合交通計画における指標を引用

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市民等の行動変容がうまれ、既存公共交通ネットワークが維持される。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	NPO団体や京阪バスとの共催による「バス乗ってスタンプラリー」や、担い手育成を目的にしたバスバックヤードツアーを開催し、子どもとその保護者に楽しみながらバスの重要性を知ってもらうツアーを実施することができた。
R7年度	関係機関と連携して「バス！のってスタンプラリー」や「バスバックヤードツアー」を実施し、参加者に楽しみながらバスの魅力や重要性を知ってもらうことで、公共交通の利用促進啓発に寄与することができた。 また、イベントへの申込件数が毎年増加していることから、将来の公共交通の担い手からの関心が高まっていることが伺える。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R8年度 取組方針	今後も、継続して公共交通の利用促進に向けたイベント、啓発に取り組む。	R8年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 （R5実績測定）	R7年度の方向性 （R6実績測定）	R8年度の方向性 （R7実績測定）	R9年度の方向性 （R8実績測定）	R10年度の方向性 （R9実績測定）
		現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—

令和7年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　886

事務事業名称		交通対策課運営事務						
担当部署(R8年度機構)		部:　土木部		課:　交通対策課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度
	事業期間	事業開始：　不明		～		事業終了予定：　未定(継続実施含む)		
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:　—		
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	交通対策課所管事務の円滑な執行						
	対象者(受益者)	市民・来訪者・交通対策課職員						
	現状・課題	交通対策課所管事務の円滑な執行						
	事業の概要	・交通対策課の予算及び決算に関する事務 ・物品の契約及び購入に関する事務 ・文書の収受、発送及び整理、保管に関する事務 ・各委託事業、補助金等の支出及び使用料の調定に関する事務						
	年間の主な事務	・交通対策課の予算及び決算に関する事務 ・物品の契約及び購入に関する事務 ・文書の収受、発送及び整理、保管に関する事務 ・各委託事業、補助金等の支出及び使用料の調定に関する事務						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.83人	0.95人	—	—
再任用	0.00人	0.00人	—	—
任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
会計年度任用職員	0.00人	0.20人	—	—
特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,381	7,799	—	—		
		会計年度任用職員	0	418	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
	人件費計		6,381	8,217	—	—		
	物件費計		2,400	3,829	—	—	2,778	137.8%
歳出計			8,781	12,046	—	—		
歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	
	府支出金		0	0	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
	市債		0	0	—	—	0	
	その他		0	0	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	0	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			2,400	3,829	—	—	2,778	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① —					

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					—
実績					—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

—

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	各職員の所管業務について平準化を行い、効率的・効果的な事務処理を行うなど、円滑な課内運営を行うことができた。
R7年度	各事業について、職員間で密に連携を取ることで、効率的・効果的な事務処理を行うことができ、課の円滑な運営を行うことができた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	今後も引き続き、各職員の業務内容の把握に努め、円滑な課内運営を維持に努める。	R8年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	**現状維持**	—	—